

石見活性化キャンペーン企画

明日へつなぐ

<32>

霧雨でけむる山野の前にそびえる「白い壁」が、威容を誇っていた。

世界遺産・石見銀山遺跡にほど近い大田市水上町の白坏(しろつぎ)地区。地域の口伝によると、古くは神仏への供物を載せる高坏(たかつぎ)の産地で、白く美しい高坏ができることから、白坏となったという。

かつての土器は、石州瓦(70)は、島根県西部を瓦産地たらしめてきた粘土を誇りとして息づく。その源は、

白い壁に見えた同町周辺の海抜200m前後の地層に約2〜6m積る粘土層「都野津層」から採った

粘土。

鉄分の含有量が少ないため風化や塩害に強く、瓦の焼き上がりも美しく保たれる。

「原料からもの作りまで、一貫して手掛けるのが石州の生き方」

同町白坏にある瓦メーカー・シバオの芝尾金男社長

ただ、決して扱いやすい粘土ではないという。成型前の粘土を触ると、しっとりしつつも、さらさら感も

資源活用

第6部 石州瓦 ③

感じる。ともすれば強度が不足し、壊れやすい瓦になってしまふ。

石州瓦の製造業者はこの課題を、手間暇を惜しまず細かな工程を設けることで

克服してきた。

シバオでは、粘土をいったん水で溶かし、草木や砂れ、耐久性に富んだ瓦がで

が、高温での焼成により粘土粒子が強く引き締められ、中核をなす大田市大森町の石州瓦の赤瓦が連なる景観が広がる。

高品質を支える島根産原料

利などの不純物を取り除き、さらには、試作品を風洞実験機にかけ、最大風速が大

たうえで、多種類の粘土を混合し、なめらかでむらのない原料に仕上げているという。

焼きの工程でも、焼成温度は他産地より100程度度高い1200度以上。工場内のトンネル窯周辺は熱気で蒸し暑く、これからの夏場の製造は過酷な作業だ

さらに、試作品を風洞実験機にかけ、最大風速が大

型台風並みの毎秒50mの環境下で排水性や強度などを確認、データを商品開発に

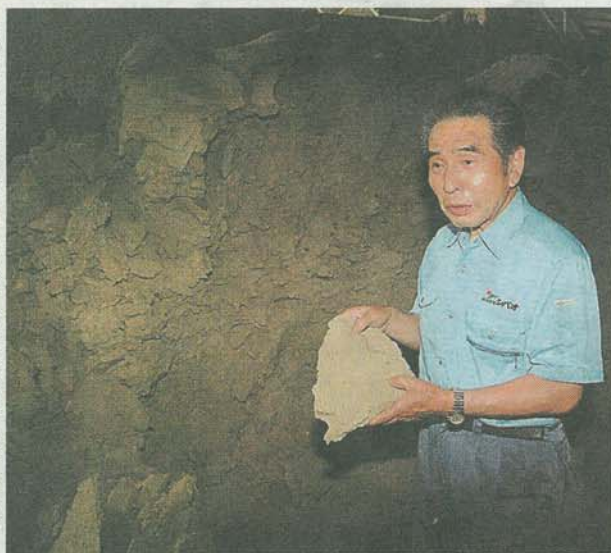
反映させ、形状面などで、他産地をリードするための工夫を重ねている。

シバオから3kmほど北西

土は地域によって鉄分の含有量が異なり、少ないと輝きを放っている。

く分布することによる。粘

土は地域によって鉄分の含有量が異なり、少ないと輝きを放っている。(毎週月曜日掲載)



成型前の粘土を手にするシバオの芝尾金男社長。土に対するこだわりは強い。大田市水上町、同社



クリック